

令和5年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立本庄小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

令和5年4月18日(火)

■ 調査の対象学年

小学校6年生児童

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査(国語、算数)

- | |
|---|
| ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。 |
| ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。 |
- 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定の割合で導入する。

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

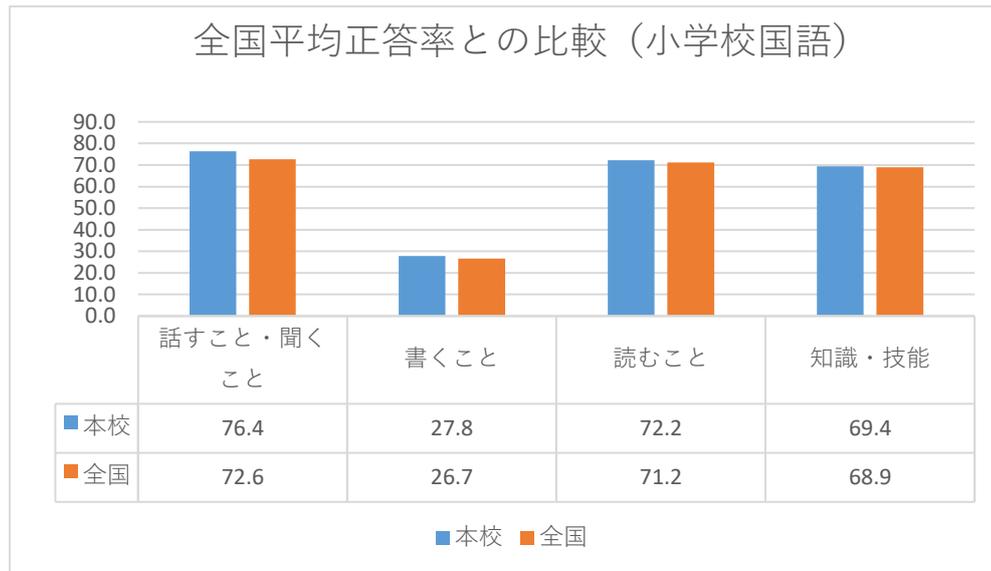
児童に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 国語への興味・関心、授業内容の理解度、読書時間、勉強時間の状況など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況など

■ 調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学、英語(中学校)に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の側面」であることをご理解の上、ご覧ください。

■ 調査結果及び考察

1 国語



(1) 結果

本校の平均正答率は、全ての領域で全国平均正答率を上回る結果でした。また、全体の平均正答率も、全国平均と比べて2ポイント上回る結果でした。無解答率についても、ほぼ全ての問題において全国平均よりも低くなっていました。

(2) 成果と課題

今回の調査で、「話すこと・聞くこと」が 3.8 ポイント上回りました。普段から対話を取り入れた学習活動を行い、他者の意見を聞くこと、それを基に考えたことを表現することについて指導している成果が表れていると考えられます。また、「書くこと」については、昨年度は 4.7 ポイント下回る結果でしたが、今回は 1.1 ポイント上回っています。日記や学習の振り返りなど、自身の思いや考えを文章にする機会を増やした成果が表れていると考えられます。

課題は、学年別漢字配当表に示された漢字を文の中で正しく使うことです。特に、同音異義語を書く問題での間違いが目立つため、漢字を覚える際に読みと字形のみを覚えるのではなく、その使い方も踏まえて覚える必要があります。このように、単なる「知識」ではなく、生きて働く「知識」の定着を図るための授業改善をしていくことで、より思考力・判断力・表現力等にも活用することに繋がると考えます。

(3) 学力向上のための取り組み

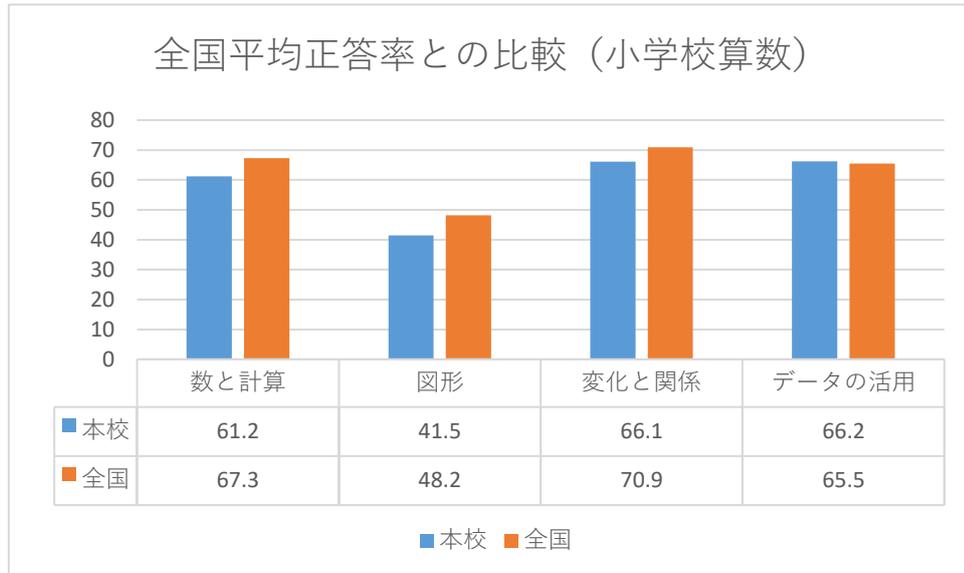
【学校では】

- 本庄検定を活用し、漢字の読み書き、文法などの基礎的・基本的な知識や技能を確実に習得できるようにします。
- 日常的に書く活動を取り入れます。目的や意図に応じて、理由を明確にししながら自分の考えを書く機会を増やします。
- 習得した国語の力を活用させる場面を増やすことで、思考力、判断力、表現力を向上させていきます。

【ご家庭では】

- 宿題で出される音読を大切にしましょう。文の構造や言葉の意味の理解、要点を捉えることにつながります。
- 読書を大切にしましょう。文学・科学・歴史・地理・芸術…いろんな本を読み、いろんな表現や用語にふれることで、語彙力を高め知識の幅を広げることができます。市立図書館や書店に定期的に行くことも、子供の読書習慣をつける上でおすすめです。

2 算数



(1) 結果

本校の平均正答率は、「データの活用」以外の領域において、平均を下回る結果でした。また、「データの活用」においても、全国平均正答率とほぼ同等の結果でした。

また、無解答率を見ると、ほぼすべての問題で全国平均と同等かそれ以上でした。

(2) 成果と課題

今回の調査では、3つの領域で平均正答率を大きく下回る結果となりました。また、無解答率も高くなっています。問題ごとの正答率を見てみると、台形の性質や公式、四則演算や()の入った計算の順序など、基本的な知識・技能を確かめる問題を確実に正答することができていません。まず、基礎的・基本的な知識や技能の確実な獲得が求められます。また、説明を記述する問題では、大幅に正答率が下がっています。学習した知識・技能を基に、自分の考えを順序立てて説明する学習を積み重ねていく必要があります。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 全校で取り組んでいる本庄検定において達成目標を設け、基礎的・基本的な知識・技能の定着を目指すとともに、適切な指導につなげます。
- 式から答えを出すだけでなく、式の意味を考えさせたり、式に合う問題を作らせたり、式から生活場面を想起させたりしながら、式、絵（図）、具体的場面を往還させていきます。
- 自分の考えを、式や言葉を使って、論理的に書く機会を増やします。
- TT少人数指導を適切に配置し、補充指導に努めます。

【ご家庭では】

- 学校から出される宿題等の取り組みを確実にさせてください。間違った問題についてはそのままにせず、やり直しをすることで、理解の一助となります。
- お子さんのドリルやプリント等の宿題に取り組む様子やテストをご覧になり、たくさん励ましや称賛の言葉をかけてください。
- 日常の中にはたくさん算数があります。買い物のときやお菓子を分けるときなど、日常の場面で算数の考えを使うような問いかけをすることで、算数の学習の理解が深まります。

4 生活習慣や学習習慣に関する調査

(1) 結果

※「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」「どちらかと言えば当てはまらない」「当てはまらない」のうち「当てはまる」と回答した児童の割合。

《生活習慣・自己肯定感・規範意識について》

調査項目	本校 %	全国平均 %
朝食を毎日食べていますか。	88.9%	83.7%
毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。	39.5%	38.1%
毎日同じくらいの時刻に起きていますか。	54.3%	55.1%
自分にはよいところがあると思いますか。	39.5%	42.6%
将来の夢や目標を持っていますか。	64.2%	60.8%
人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	85.2%	75.3%
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	80.2%	82.6%

朝食・起床・就寝については全国平均を上回る、もしくは同等の結果でした。「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムを大切にしていくことはとても重要です。家庭と学校で協力して、これからも継続しながら習慣化をしていきましょう。

「人の役に立ちたい」という他者貢献の項目については、肯定的な回答をした児童は全国平均よりも高い結果が出ています。

《家庭学習の様子》

調査の項目	本校%	全国平均 %
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。	23.5%	28.7%
学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。「3時間以上」	9.9%	11.8%
「2時間以上、3時間より少ない」	17.3%	13.8%
「1時間以上、2時間より少ない」	21.0%	31.5%
「30分以上、1時間より少ない」	22.2%	26.9%
「30分より少ない」	21.0%	11.4%
「全くしない」	8.6%	4.6%

家庭学習については、30分未満の児童が3割、1時間未満まで含めると5割となっており、全く家庭学習をしていない児童もいました。個人差が大きいため、家庭学習の手引きをもとに家庭学習の意味を保護者や児童に伝え家庭学習が習慣化するように指導をしていきます。また、自分の目標に向かって、計画を立てて家庭学習を行う習慣についても指導していきます。

(2) 改善に向けての取り組み

【学校では】

- 学校からは、学年に応じた宿題を出しています。自主学習（自学）についても全校で取り組み、お手本になる自学ノートを紹介しながら、自分に合った学習の仕方ができるようにしていきます。
- 始業前（8：05～8：15）の朝の読書の推奨をしたり、図書委員を中心に読書イベントをしたり、ボランティアによる読み聞かせをしたりするなど、読書の機会を増やすための工夫をしています。
- 保健室からの保健だよりで、健康的な生活や季節に応じた健康の保持について発信しています。

【ご家庭では】

- 規則正しい生活や家庭学習の習慣を定着させたり、自己肯定感が高まったりするために、お子さんが自分からできたとき、ほんの少しでも向上したときを見逃さず、声掛けをしてください。
- 「本庄小家庭学習の手引き」をご覧になり、学習時間の目安や、自主学習の説明を参考に、自分で決めて学習できるように励ましてください。